

・新社名「株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ」となったの初の決算説明会資料です。
(新社名への変更理由については、「1. 会社概要」の社名変更のページ(P5)を参照
願います。)

なお本資料は、2007年11月12日の決算説明会の要約です。本資料には、将来の業績
に関わる記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、
リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、
目標対比異なる可能性があることにご留意ください。

又、本資料は情報の提供のみを目的としており、投資の勧誘を目的としておりません。

2007年上期決算説明会

2007年11月12日
株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ

目 次

1. 会社概要
2. 経営概況
3. 2007年度(08/3期)業績見込み
(07/上実績 及び 07年度見込み)
4. 特記事項
 - ・生産能力増強投資の進捗について
 - ・民間航空機市場について
 - ・中国のスポンジ生産について

会社概要

会社プロフィール

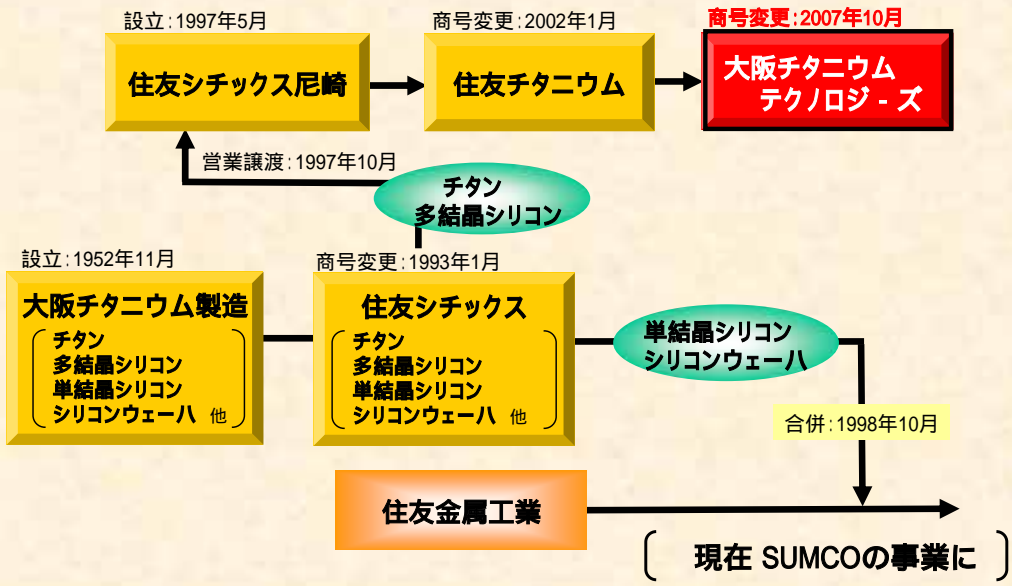
本社 : 尼崎市東浜町1番地
代表者 : 代表取締役社長 橘 昌彰
設立 : 1997年5月
大株主 : 住友金属工業 23.9%, 神戸製鋼所 23.9%
(2007年9月末)



資本金 : 8739 百万円(2007年9月末)
売上高 : 26025 百万円(2007年9月期)
経常利益 : 10157 百万円(2007年9月期)
当期純利益: 5744 百万円(2007年9月期)
事業内容 : 金属チタンに係わる「チタン事業」
半導体関連製品 及び 環境エネルギー-関連製品 etc.
の「その他事業」

(参考)

会社沿革



(参 考)

社名変更

< 社名変更の理由 >

- ・ 今回の能力増強により 世界に大きく飛躍する体制を整えた
- ・ これを機に かつて世界で先駆的役割を果たし 今でも高品質のチタンの代名詞として輝かしい歴史と知名度を有する「OTC」ブランド 即ち当社の前身「大阪チタニウム」に
伝統の経営理念である技術立社を表現した「テクノロジー - ズ」を付した
新社名とし 名実ともに一層の業容拡大に邁進する

< 新社名 >

- ・ 日本名 : 株式会社大阪チタニウムテクノロジー - ズ
- ・ 英 名 : OSAKA Titanium technologies Co.,Ltd.
- ・ 略 称 : O T C

・ 2007年6月の定時株主総会で承認、2007年10月1日より新社名に移行

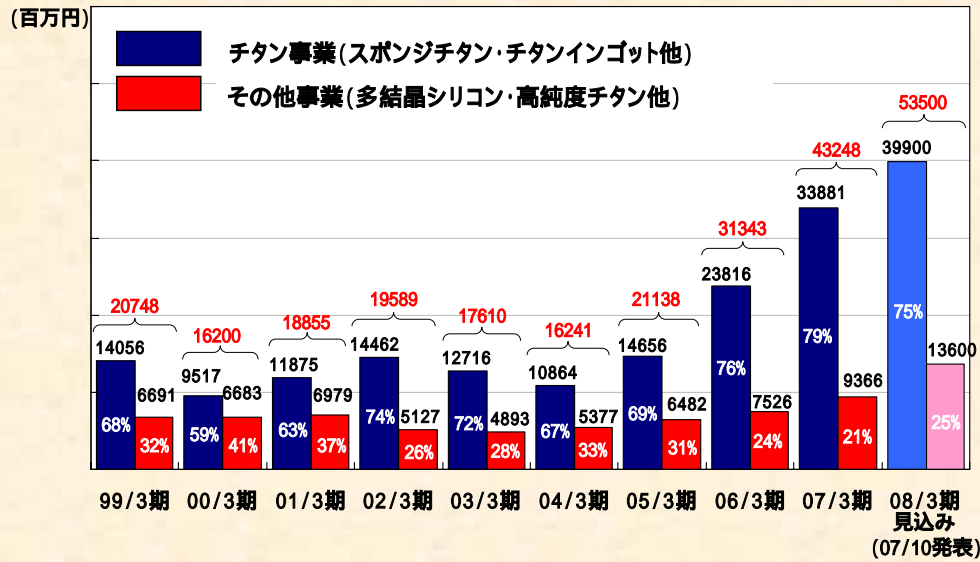
- ・売上高・利益・配当について、2007年度上期の実績を踏まえての2007年度見込みを、経営概況としてとりまとめています。

経営概況

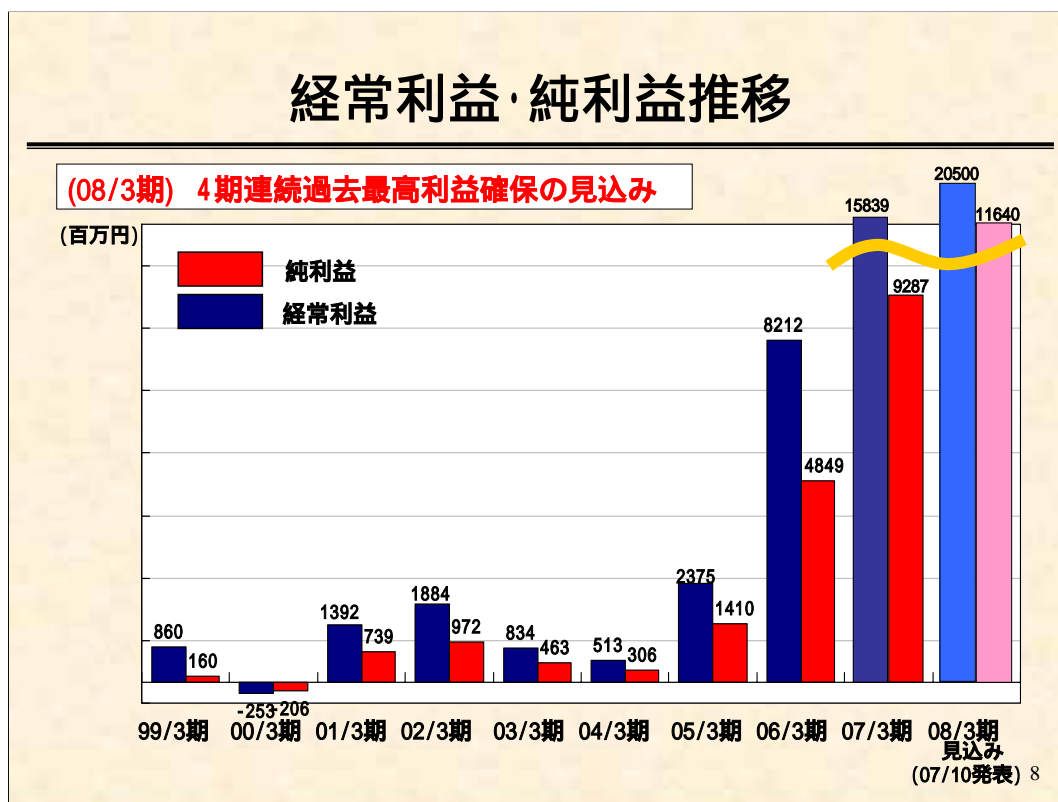
・2007年度の売上高については、4期連続過去最高になると見込んでいます。

事業別売上高推移

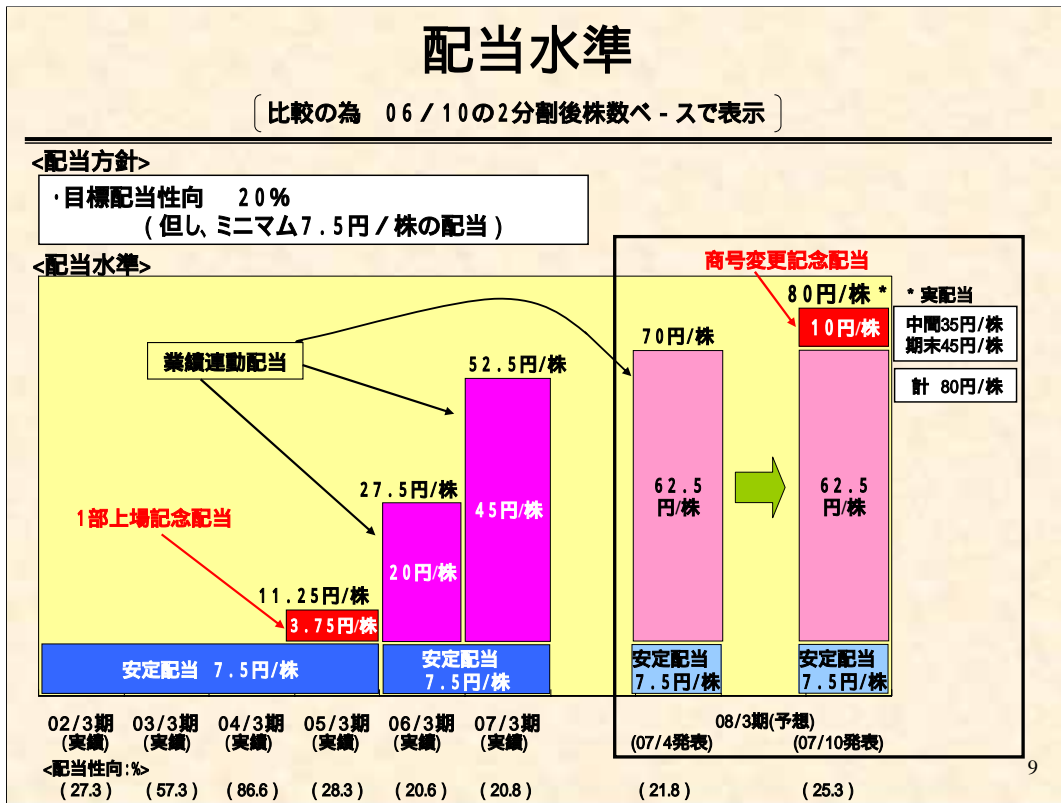
(08/3期) 4期連続過去最高売上高確保の見込み



・同様に、2007年度の経常利益、純利益とも、4期連続過去最高になると見込んでいます。



- ・4期連続の過去最高売上高、利益水準が確保できる見込みのもと、当初の配当(予想)70円/株に対し、この度商号変更による記念配当(10円/株)も加えて、配当(予想)を80円/株と上方修正します。



2007年度(08/3期)業績見込み

(07/上実績 及び 07年度見込み)

・2007年度上期の実績に2007年度下期を加えた2007年度の業績見込みは下表の通りです。

前年度比大幅増収増益を見込んでいます。なお、特別損益の部の損の増大は、来期稼働予定のスポンジチタンの生産能力増大の早期稼働を目指しての工事を前倒しに進めていることに伴うものが主体です。

2007年度(見込み)・P / L

対 2006年度実績

	06年度 実績	07年度 見込み(07/10発表)			06年度 07年度	06年度 07年度 増減率
		上期実績	下期予想	計		
売上高	43248	26025	27475	53500	+ 10251	+ 23.7
営業利益	15898	10279	10421	20700	+ 4801	+ 30.2
営業外損益	59	121	79	200	140	
経常利益	15839	10157	10343	20500	+ 4660	+ 29.4
特別損益	254	493	607	1100	845	
税前当期利益	15585	9663	9737	19400	+ 3814	+ 24.5
当期純利益	9287	5744	5896	11640	+ 2352	+ 25.3

(為替レート) (117円/\$) (120円/\$) (115円/\$) (117円/\$)

営業外損益について	: 為替差損	(06年度)	156	(07年度)	264
特別損益について	: 固定資産除却損	(06年度)	256	(07年度)	352
	: 地中障害物撤去損	(06年度)	-	(07年度)	500
	: 関係会社評価損	(06年度)	-	(07年度)	242

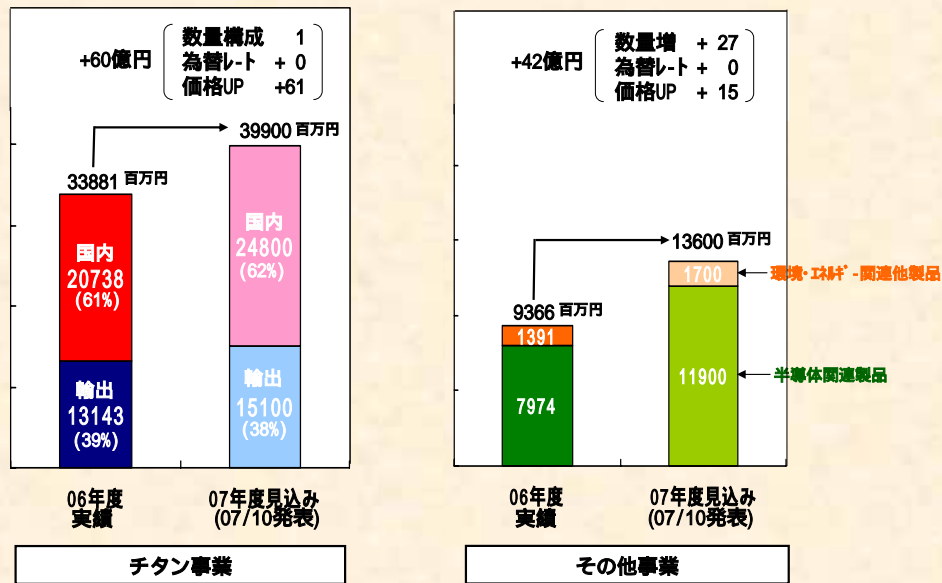
改正「償却制度」の影響 6億円

11

- ・セグメント毎の売上高の変動要因は下表の通りです。
- チタン事業については、スポンジチタン価格の前年度契約比30%アップが大きく寄与しています。
- その他事業については、多結晶シリコンの2007年7月よりの生産能力のアップと多結晶シリコンの前年度契約比20%アップが大きく寄与しています。

2007年度(見込み)・売上高の変動要因

対 2006年度実績



- ・セグメント毎の営業利益水準は下表の通りです。
営業利益の変動要因は次ページに記載しておりますので、ご参照下さい。
- ・その他事業の営業利益率(対売上高比)の低下は、多結晶シリコンの生産能力アップに伴う初年度の償却費負担増が大きく影響しているためです。

2007年度(見込み)・部門別営業利益水準

(対 2006年度実績)

部門別営業利益水準

(百万円)

06年度
実績

	売上高	営業利益
チタン事業	33881	(36.7) 12420
その他事業	9366	(37.1) 3478
計	43248	(36.8) 15898

() 内は対売上高比

(百万円)

07年度
見込み
(07/10発表)

	売上高	営業利益
チタン事業	39900	(42.6) 17000
その他事業	13600	(27.2) 3700
計	53500	(38.7) 20700

() 内は対売上高比

- ・全社の営業利益の対前年度増大の要因は下表の通りです。
2007年度の増大48億円の中には、将来の利益拡大のためのコスト20億円が含まれています。

2007年度(見込み)・営業利益の変動要因

(対 2006年度実績)

営業利益の変動要因

06年度 15898百万円
実績

07年度 20700百万円
見込み
(07/10発表)

+ 48億円

(億円)

	収益水準プラス要因			収益水準マイナス要因			将来の為のコスト		
	チク	チク	その他	チク	チク	その他	チク	チク	その他
販売数量	+12	-	+12						
販売価格	+82	+67	+15	6	6	(B級スポンジ市場軟化)			
為替レ-ト	+0	+0	+0						
コスト				14	1	13	6		6
償却費							4	1	3
開発強化				6	3	3	10	10	(増強準備コスト)
その他									
合計	+94	+67	+27	26	10	16	20	11	9

改正
「償却制度」
適用

・2007年4月発表の2007年度業績(見込み)から、今次見込みへの変動は下表の通りです。

その変動要因については、次ページをご参照下さい。

(参 考)

2007年度(見込み)・P / L

(対 07/4発表の2007年度見込み)

当期純利益

(百万円)

	07年度 見込み (07/4発表)	07年度 見込み (07/10発表)	07/4発表 07/10発表
売上高	53000	53500	+ 500
営業利益	20200	20700	+ 500
営業外損益	200	200	
経常利益	20000	20500	+ 500
特別損益	300	1100	800
税前当期利益	19700	19400	300
当期純利益	11820	11640	180

(為替レート)

(115円/\$)

(117円/\$)

(2円/\$安)

- ・2007年4月発表の2007年度業績(見込み)からの変動要因は下表の通りです。当初織り込んでいなかった2008年(1月～12月)のスポンジチタンの輸出価格が前年(2007年1月～12月)契約比10%アップで決定しましたので、今次見直しました。

(参考)

2007年度(見込み)・P / L

(対 07/4発表の2007年度見込み)

売上高・経常利益の変動要因(対 07/4発表)

(億円)

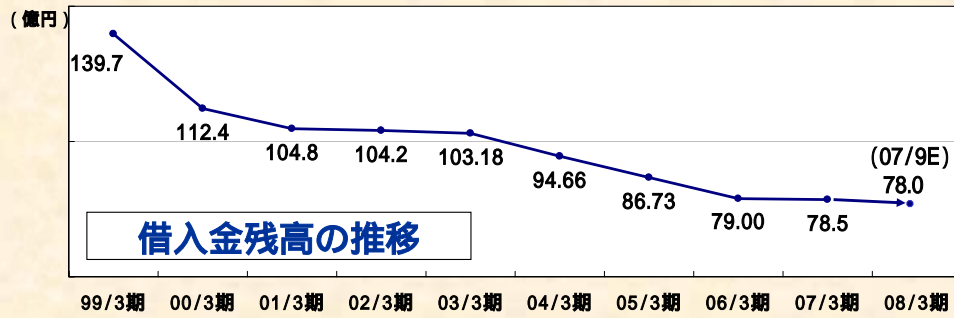
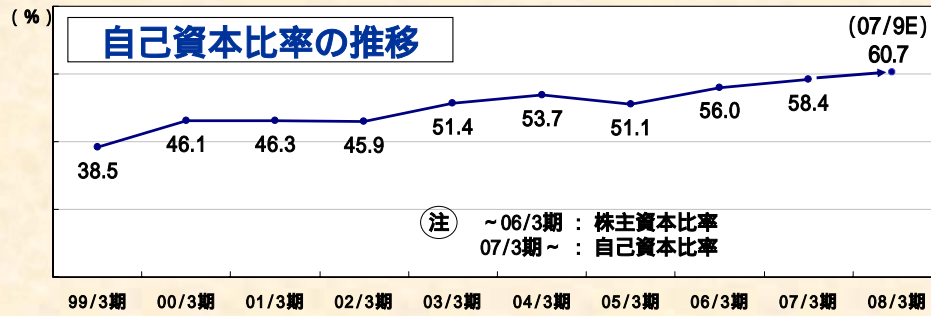
	影響額	
	売上高	経常利益
為替レート (115 117円 / \$)	3	2
スポンジ輸出価格 (08年分 0 10%UP)	3	3
その他	(構成他) 1	
合 計	5	5

16

・2007年度上期のB / Sの主な変動要因は下表の通りです。

2007年度上期・B / S	
「総資産」：前年度末比 5477百万円の増 (07/3E 57037 07/9E 62514百万円)	
資産の部	流動資産 3086百万円増
	<ul style="list-style-type: none"> ・手許資金の減 1047百万円 ・売上債権の増 3295百万円 ・棚卸資産の増 999百万円
	固定資産 2391百万円増
	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の増 2638百万円 ・投資その他の資産の減 244百万円
負債及び純資産の部	負債の部 817百万円増
	<ul style="list-style-type: none"> ・借入金の減 50百万円 ・買入債務の増 651百万円 ・未払金及び設備関係支払手形の増 1364百万円 ・未払法人税等の減 722百万円
	純資産の部 4660百万円増
	<ul style="list-style-type: none"> ・利益剰余金の増 4640百万円
	(07/9E借入残高 7800百万円)

(参考)

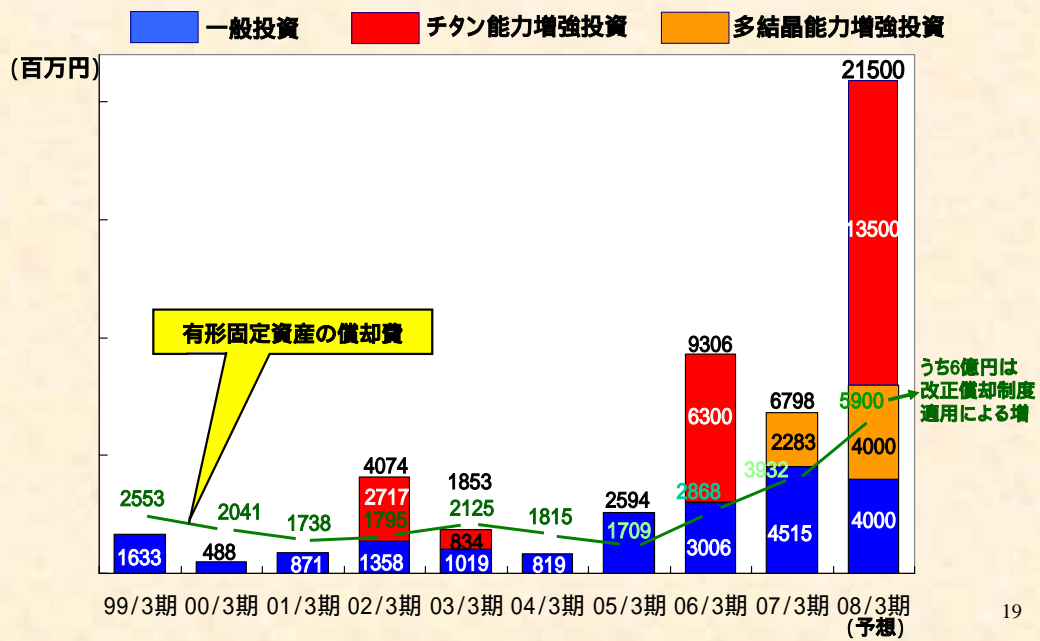


・2008年度の業容拡大に貢献することとなる、スポンジチタンの生産能力増大及び多結晶シリコンの生産能力増大の早期稼働を目指しての工事を前倒しに進めております。(P23参照)

このため、2007年度の設備投資は、これらの建設仮勘定計上を主体に大きく増大する見込みです。

(参 考)

設備投資と償却費の水準(有形固定資産)



特記事項

1. 生産能力増強投資の進捗について
2. 民間航空機市場について
3. 中国のスポンジ生産について

1.生産能力増強投資の進捗について

- ・中期経営計画(2007～2009年度の3ヵ年計画)の柱となっている生産能力増強投資は、強まる供給拡大要請に対し、より早期稼動を目指し精力的に増強工事を進めています、その工事の進捗は下表の如く順調に進んでいます。

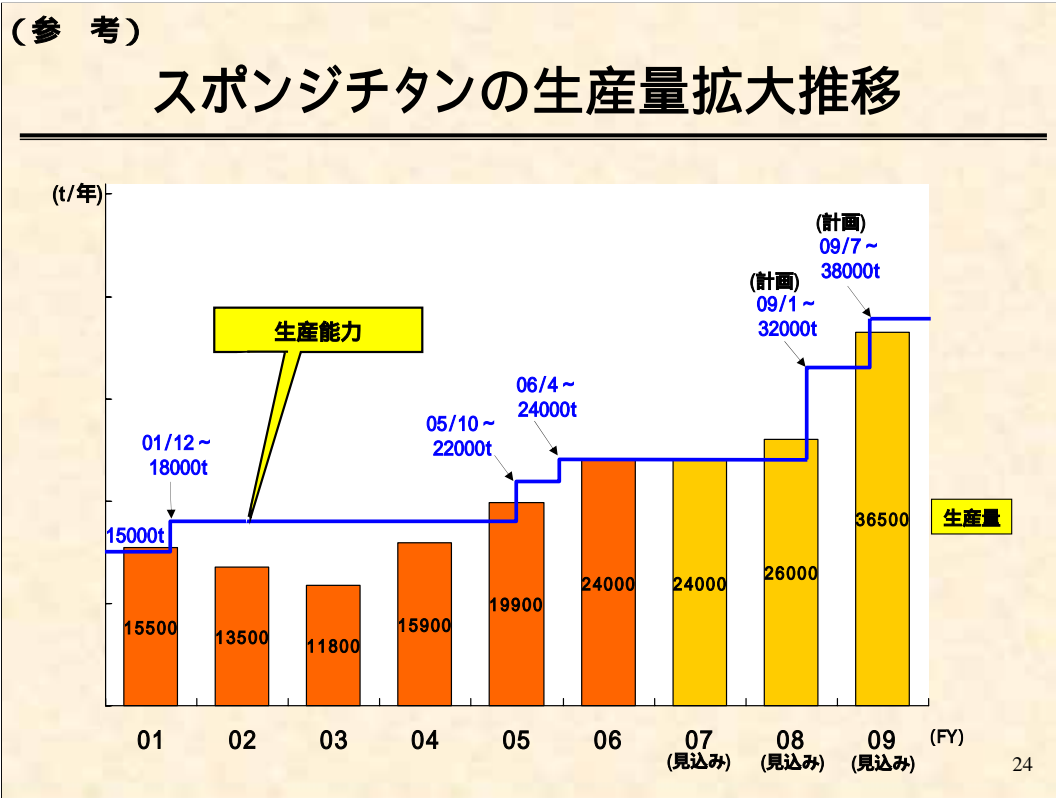
能力増強投資の07年度の状況

			<計画>				<推進状況及び見込み - 固定資産計上ベ - ス>			
		増強内容	07～09年度 の投資額		06年度 実績	07年度 予想	08年度 見通し	09年度 見通し		
			億円			億円	億円	億円		
スポンジ チタン	1st-STEP	24000 32000t/年 (09/1～出荷)	276			*129	147			
	2nd-STEP	32000 38000t/年 (09/7～出荷)	43			*6	32	5		
			319			135	179	5		
多結晶 シリコン	1st-STEP	900 1300t/年 (07/7～出荷)	54		23	31				
	2nd-STEP	1300 1400t/年 (08/10～出荷)	12			*9	3			
			66							
インコット (VAR方式の場合)		7000 8500t/年	20					VARの場合 20		
高純度チタン		300t/年対応	5				5			
合計			410		23	175	187	25		

稼動時期の
より早期化を目指し
前倒して
工事推進中

*上記赤字部分は
稼動まで建設仮勘定に計上

- ・ スポンジチタンの能力増強と、各年度の生産量の実績と今後の増大計画は下表の通りですが、2008年度および2009年度の生産能力および生産量は下表の計画に対し、稼動時期を早めるべく前ページに示したように増強工事を精力的に進めています。



2.民間航空機市場について

- ・民間航空機市場動向の構図は下表の通りです。
当社への供給拡大要請は2007年始めに比べ更に強まってきており、当社はスポンジチタン能力増強の、より早期稼働を目指し増強工事を精力的に進めています。

民間航空機向け需要動向

<受注状況>

・07年の民間航空機(ボーイング&エアバス)の受注は 新型機の受注急拡大も含め 高水準継続 (P27、P28参照)

・07年末は、かつてない高水準の受注残となる見込み(P29参照)(デリバリ - 機数見通しの担保力よりUP)

+

<06～15年の10年間の民間航空機(ボーイング+エアバス)のデリバリ - 機数>

・高水準のデリバリ - 機数の見通しが変わらない中 (07/1時点展望より07/7時点展望では微増)
デリバリ - 機数のピーク、ボトム差減少 及び その中で 逐次新型機のウェイト拡大(P30参照)

・高品質チタン需要の より安定的拡大 と 更なる供給拡大要請



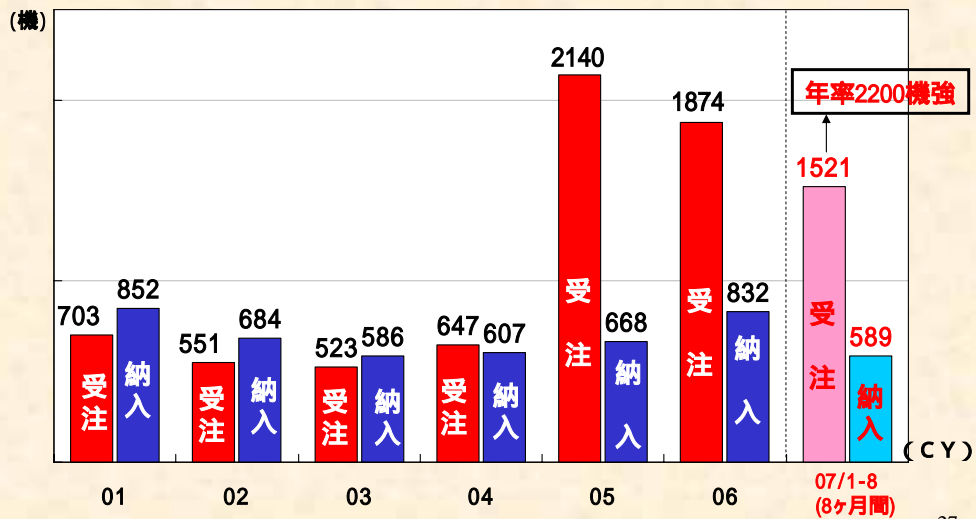
<当社としては>

・能力増強 (24 38千t化) のより早期稼働の追求
&
・次なる能力増強の検討要

民間航空機の受注・納入機数

(ボーイング+エアバス)

・ 2001~2003 受注 < 納入 (受注残の減少)
 ・ 2004~ 受注 > 納入 (受注残の拡大)



出典：日本航空機開発協会データより

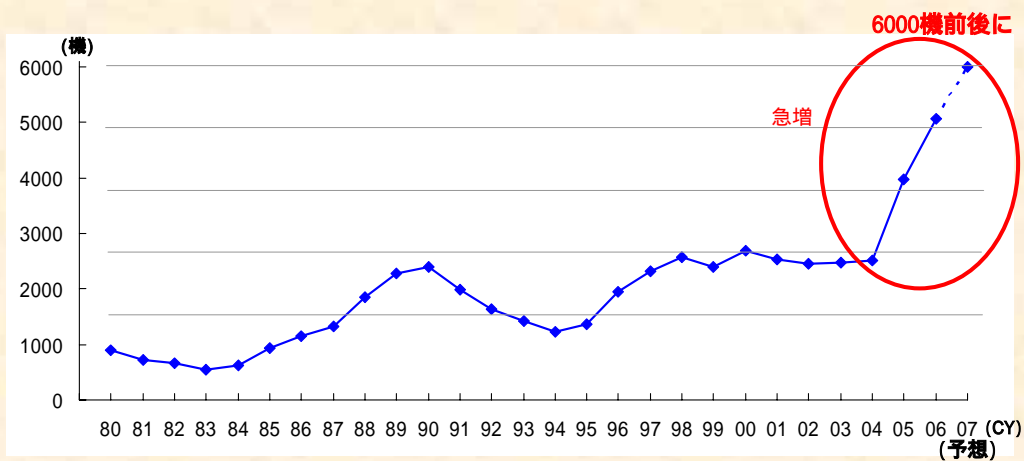
新型機の受注状況(現状)

			受注状況	
			06/12E	07/10.5
ボ-イング	B-787	確定	448	710
		オプション	263	332
		小計	711	1042
エアバス	A-350	確定	102	325
		オプション	20	44
		小計	122	369
	A-380	確定	166	185
		オプション	35	30
		小計	201	215
合 計		確定	716	1220
		オプション	318	406
			1034	→ +592 → 1626

出典：日本航空機開発協会データより

民間航空機の受注残推移

(ボーイング+エアバス)



出典：日本航空機開発協会データより

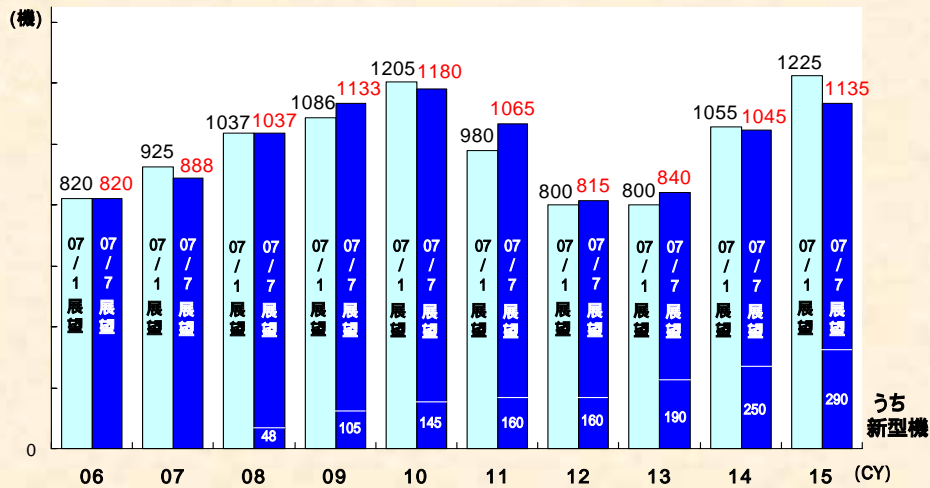
- ・民間航空機のデリバリーは「山谷」がありますが、機体の生産については「山谷」のないフル生産が継続するものと見ており、当社高品質スポンジチタンの需要の「山谷」はないものと見ています。

民間航空機のデリバリ - 展望

(ボーイング+エアバス)

< 06~15年のデリバリ - 機数 >

- ・(07/1時点展望) 9933 機 **微増** (07/7時点展望) 9958 機
- ・(07/1時点展望) **07/7時点展望** ビーク・ボトム差 **減少** より平準化



出典: AIRLINE MONITOR (07/1 & 07/7)

3.中国のスポンジ生産について

- ・中国のスポンジチタン生産は急拡大してきており、かつ、今後の大幅な生産能力アップの計画がありますが、下表の如く諸課題があり、当面は当社の市場である高品質市場への影響はないと見ています。

中国のスポンジチタン生産状況と市場への影響

・現在、生産能力及び生産量急拡大中 + 大巾な生産能力UP計画あり(P33参照)

(その中身)

<生産体制面>

・生産者(含む生産計画者)の主体は
非一貫メ-カ-(*)の新規参入
(P33、P34参照)

高品質品対応
に限界

<生産技術面>

・中国の展伸材用スポンジ品質規格の
最高品位のチタン純度は 99.7%
(cf:当社は 99.9%)
・現生産の主体は 99.5~99.6%

高品質規格品要求
への対応に限界

<コスト面>

・最大手(達義)以外は
小型還元炉による生産
・輸出に関わる税制:奨励から規制へ
(P35参照)
・電力コストは07年中ばよりほぼ日本並

収益力に限界
(コスト競争力の限界)

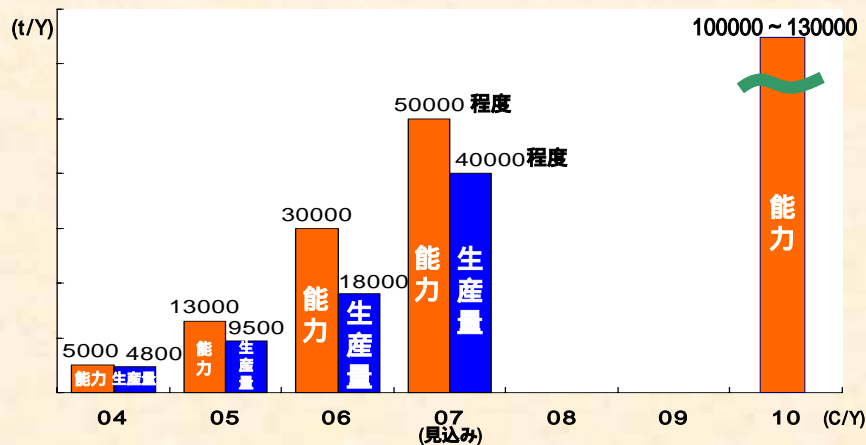
(市場への影響)

・高品質品市場への
影響は殆どなし

・「親不孝相場」
であったB級品価格
のノ-マル価格化

* 非一貫メ-カ- : 酸化チタンメ-カ-より中間製品(四塩化チタン)を購入し スポンジ生産
(チタン純分及び他成分をコントロールする蒸留設備を保有せず)

中国のスポット生産状況

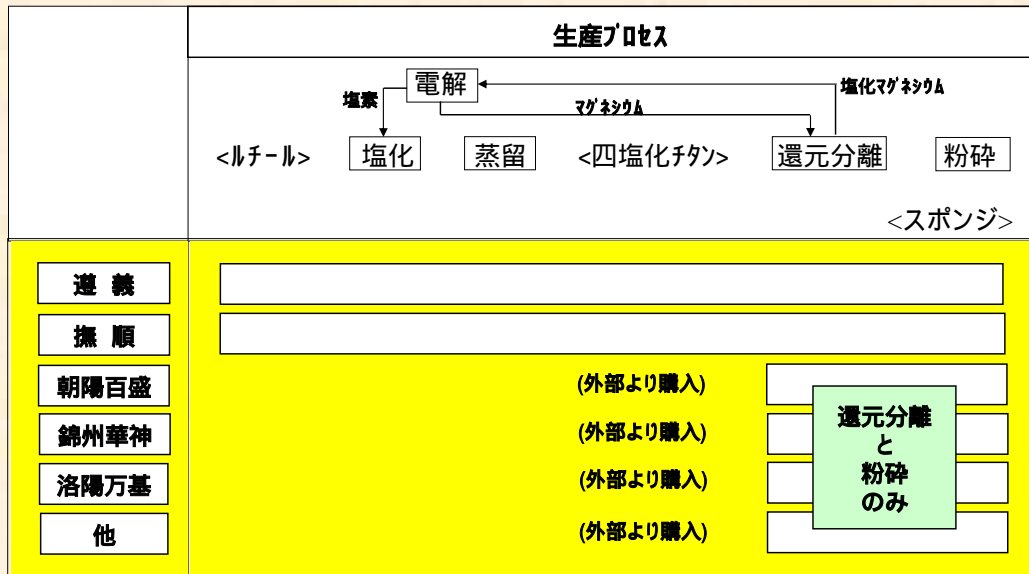


生産量	04	05	06	07	注
遠 義	3400	7400	10200	14000	(一貫メ - カ -)
撫 順	1400	1800	3100	5000	(一貫メ - カ -)
朝陽百盛			2300	6000	(非一貫メ - カ -)
錦州華神			1100	4000	(非一貫メ - カ -)
洛陽万基			400	4000	(非一貫メ - カ -)
他		(数社) 300	(数社) 900	(十数社) 7000	(非一貫メ - カ -)

出典：中国有色金属工業報告及び当社推定

(参考)

中国スポンジメ-カの生産体制(2007年の状況)



出典: 当社推定

(参 考)

中国の輸出還付と輸出関税(チタン関係)

・輸出奨励から輸出規制へ

	2005	2006	2007
フェロチタン	0 %	(10/1) → +10 % (関税UP)	(6/1) → +15 % (関税UP)
チタン塊粉	13 %	(9/15) → 0 % (還付廃止)	
チタン屑	13 %	→ 0 % (還付廃止)	
チタン製品	13 %		(7/1) → 5 % (還付圧縮)

符号は輸出還付 + 符号は輸出関税